

ハーベスト夏期聖会  
説教について考える(2)  
－聞く側の視点から－

はじめに

(1) この説教を語る理由

- ①新しいスタートを切った自分にとって、説教は最優先課題である。
- ②良い説教とは
  - \* 聖書的 (Biblical)
  - \* 論理的 (Logical)
  - \* 实际的 (Practical)
- ③前回は、語る側の視点から、5つのポイント(あいうえお)を紹介した。
- ④今回は、聞く側の視点から、5つのポイント(ABCDE)を紹介する。
- ⑤説教について考えるのは、語る側にとっても、聞く側にとっても、重要なこと。
  - \* 説教は、語り手、聞き手、聖霊が協力して作り上げる芸術である。
  - \* 礼拝の場は、非日常、超日常の世界に変わる。

説教の形態の歴史の変遷

- (1) 初代教会(1~4世紀) — 即興的で聖書中心の説教
- (2) 中世(5~15世紀) — ラテン語による典礼中心の説教
  - ①典礼の一部として短い説教が行われた(ミサの中のホミリー)。
- (3) 宗教改革(16世紀) — 聖書中心の説教の復興
  - ①典礼から講解説教へ(説教が礼拝の中心となる)
  - ②ラテン語から母国語の説教へ(理解可能な説教となる)。
- (4) 近世(17~18世紀) — 大覚醒運動と感情に訴える説教
  - ①「野外説教」や「クルセード説教」の発展
  - ②感情的・劇的な説教スタイル(聴衆の反応を意識した説教)
- (5) 近代(19~20世紀) — メディアを活用した説教
  - ①ラジオ・テレビ伝道の登場(説教が広範囲に届くようになる)
  - ②アメリカで「リバイバルクルセード」が流行。
  - ③都市型の大規模教会が増える(メガチャーチの誕生)。
- (6) 現代(21世紀) — デジタル時代の説教
  - ①インターネットを活用した説教(YouTube・Zoom・SNSで配信)
  - ②短い説教が人気(聞き手の集中力に対応)
  - ③メガチャーチと家の教会の二極化
  - ④デジタル時代のメリット(利点)

- \*世界中に届く説教 (YouTube、Zoom、SNS の活用)
- \*アーカイブによる学びの継続 (何度も学び直せる)
- \*迫害地域での宣教の拡大 (オンラインでアクセス可能)

⑤デジタル時代のデメリット (欠点)

- \*「ただ聞くだけ」の受動的信仰 (礼拝の一体感の喪失)
- \*エンタメ化・アクセス数重視 (心地よい話に偏る危険性)
- \*異端や偽教師の教えが拡散しやすい環境 (識別力が必要)
- \*「切り取り志向」がもたらす文脈無視の危険性

説教を聞く側に要求される5つの心構え (ABCDE)

I. Awe (畏敬)

1. 畏怖と畏敬は異なる。

(1) 畏怖とは、畏+怖である。

- ①神の裁きを恐れる感情 (アダムは罪を犯して神から隠れた)

(2) 畏敬とは、畏+敬である。

- ①神の偉大さに驚き、敬意を抱く態度 (イザヤの場合は、畏怖→畏敬)。
- ②畏敬は、信仰者の重要な資質である。
- ③箴9:10

Pro 9:10 【主】を恐れることは知恵の初め、／聖なる方を知ることは悟ることである。

- ④畏敬の欠如は、今日の礼拝における最大の問題の一つである。

2. 畏敬の基となる3つの要素

(1) 神の聖さの認識

- ①イザ6:3

Isa 6:3 互にこう呼び交わしていた。／「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。／その栄光は全地に満ちる。」

- ②畏敬は、臨在感と比例する。

(2) 神の権威の受容

- ①説教は、神のみことばの宣言であり、単なる人間の意見ではない。

(3) 神の御業への驚き

- ①ロマ11:33

Rom 11:33 ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道はなんと極めがたいことでしょう。

### 3. 畏敬の念を失った人々の例

#### (1) ナダブとアビフ (レビ 10 章)

- ①アロンの息子たちは、異なる火(異なる香り)を主の前に献げた。
- ②神の火が彼らを焼き尽くした。

#### (2) ウザ (2サム 6 章)

- ①契約の箱は、ケハテ族が棒を使って運ばなければならない。
- ②ウザ(アビナダブの子)は、契約の箱を牛車で運んだ。
- ③契約の箱を押さえようと手を伸ばし、打たれて死んだ(畏敬の欠如)。

#### (3) アナニヤとサツピラ (使 5 章)

- ①教会の初期において、献金額を偽った夫婦が即座に死んだ。
- ②神は、初代教会に対して特に厳格な聖さを求めた。

## II. Brokenness (砕かれた心)

### 1. 砕かれた心とは

#### (1) 謙遜な心

- ①詩 51:17

Psa 51:17 神へのいけにえは 砕かれた霊。／打たれ 砕かれた心。／神よ あなたはそれを蔑まれません。

### 2. 砕かれた心が必要な理由

#### (1) 神が語られることを素直に受け入れるため

- ①心が砕かれていない人は、説教を聞いても自分に適用できない。
- ②心が砕かれていない人は、自分に都合の良い話しか受け入れない。
- ③「石の心」でなく「柔らかい心」で聞くよう命じられている(エゼ 36:26)。  
(ILL) 「感動を覚える説教を聞いたことがない」と書いてきた人がいる。

#### (2) 聖霊が働きやすくなるため

- ①砕かれた心の人、聖霊の示しに素直に応答することができる。
- ②詩 34:18

Psa 34:18 【主】は心の打ち砕かれた者の近くにおられ／霊の砕かれた者を救われる。

#### (3) 悔い改めを可能にするため

- ①説教の目的は、単に知識を増やすことではなく、霊的な変革をもたらすこと。

②「今日は、どの点で悔い改めるべきか」と問いながら説教を聞くことが重要。

③ヤコ1:22

Jas 1:22 みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけません。

### III. Calmness (静けさ)

1. 内面の静けさは、良い聞き手になるための重要な要素である。

(1) 音楽においても、静けさは不可欠な要素である。

①休止符は、音楽の休止を意味しない。

②ピアノがあるから、フォルテが生きる。

③詩46:10

Psa 46:10 「やめよ。知れ。／わたしこそ神。／わたしは国々の間であがめられ／地の上であがめられる。」

2. 内面の静けさが必要な理由

(1) 神の声を聞くため

①神はしばしば、静寂の中で語られる。

②エリヤは、神の声を「静かなささやき」として聞いた(1列19:11~12)。

(2) 聖霊の導きに従うため

①聖霊は、みことばを通して私たちの心に働かれる。

②心が騒いでいる状態では、聖霊の導きを受けるのが難しくなる。

(3) 自己吟味をするため(砕かれた心を確認する)

①説教は、自分自身を振り返り、神の前にへりくだる機会である。

(ILL) ガリラヤ湖の湖面

### IV. Discernment (識別力)

1. 聖書の警告

(1) 聖書は、誤った教えに注意するように繰り返し警告している。

①1ヨハ4:1

1Jn 4:1 愛する者たち、霊をすべて信じてはいけません。偽預言者がたくさん世に出て来たので、その霊が神からのものかどうか、吟味しなさい。

2. 識別力が必要な理由

(1) すべての説教が真理とは限らないから

① マタ 7:15

Mat 7:15 偽預言者たちに用心しなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、内側は貪欲な狼です。

② 注意すべき説教の例

\* 人間中心の説教

(成功や自己実現を強調し、悔い改めを語らない)

\* 文脈を無視した説教

(文脈を無視し、部分的な引用で都合の良い解釈をする)

\* 自己啓発的な説教

(聖霊の働きよりも、人間の努力やポジティブ思考を強調)

(2) 私たちは、霊的な戦いの中にいるから

① サタンは、偽りの教えを用いて、信仰を破壊しようとする。

② 「少しの間違い」でも、時間が経つにつれて大きな害悪をもたらす。

③ 1ペテ 5:8

1Pe 5:8 身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

④ 疑問があれば、自分で聖書を開き、確認する習慣を養う。

⑤ 本物に触れ続けていると、偽物を見抜くことができるようになる。

## V. Examination (自己吟味)

### 1. デジタル時代の説教の危険性

(1) 説教のはしごをし、傲慢になってしまう。

① 音楽コンクールの審査員のような感覚で、説教を格付けする。

② 識別は必要であるが、格付けは危険である。

(ILL) ゴスペル・コンクールの審査員をしたが音楽を楽しめなかった。

(2) 良い説教とは

① 神を思い、神と交わる場を提供する説教

② 聴衆を自己吟味へと導く説教

### 2. 自己吟味が必要な理由

(1) 神の前に正しい態度で立つため

① 詩 139:23~24

Psa 139:23 神よ 私を探り 私の心を知ってください。／私を調べ 私の思い煩いを知ってください。

Psa 139:24 私のうちに 傷のついた道があるかないかを見て／私をとこしえの道に導いてください。

(2) 聖書の真理に照らして、自分の心を探るため

①「あの人に聞かせたい」ではなく、「神は私に何を語っておられるのか」。

(3) 罪を告白し、清められるため

①1 ヨハ 1:9

1Jn 1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

②自己吟味の目的は、「行動を変えること」である。

## 結論

### 1. 説教に関する3つの真理

- (1) 説教は、語り手、聞き手、聖霊の3者が共同で作る芸術である。
- (2) 説教を聞くことは、受動的行為ではなく、能動的行為である。
- (3) 説教者は、聴衆によって作られる。

### 2. 説教を聞く側に要求される5つの心構え

- (1) Awe (畏敬)
- (2) Brokenness (砕かれた心)
- (3) Calmness (静けさ)
- (4) Discernment (識別力)
- (5) Examination (自己吟味)